

未来^眼とうほく 第25回

人財と風土が支える産業・交流都市 酒田

酒田市は、2005年11月に1市3町の合併により（新）酒田市として発足し、人口は約10万6千人（平成28年4月）と山形県内では人口第3位の都市である。

平安期に出羽国府がおかれたともいわれ、また、奥州藤原氏ゆかりの人々により港町として開かれたとも伝えられている。江戸期には、北前船の起点として「西の堺、東の酒田」と称されるほど繁栄した。酒田36人衆といわれる自治組織による町の運営、廻船問屋の^{あぶみや}鐘屋や日本一の地主とされた本間家にみられるように、豪商を中心とした文化に特色がある。本間家三代当主の光丘などによる庄内砂丘林の植林事業にみられるように、公益の志が伝わり、国内で初の公益学を学ぶ大学である東北公益文科大学も2001年4月に開校されている。

また、最上川が育んだ肥沃な庄内平野に位置し、庄内米、果樹、園芸作物栽培、畜産など多様な農業が営まれるとともに、日本海でとれる海産物も豊富である。

昭和初期の酒田港の拡張を契機に、東北屈指の臨海工業地帯が形成され、鉄鋼、金属機

械、化学産業等が立地し、昭和50年代にはいと電子部品関連産業の集積が進み、現在の本市の基幹産業となっている。山形県有数の酒造業、食肉加工業も重要な産業である。

酒田港は、国際航路の開港、コンテナヤードの整備が進み、2003年にリサイクルポートに指定され、2011年には日本海側拠点港に選定されており、近時コンテナ貨物量が増えている。

市内には豪商文化を伝える本間美術館、相馬楼、港町の風情を残す山居倉庫の他、土門拳美術館、酒田美術館などが、また、郊外には雄大な鳥海山、手つかずの自然が残る飛鳥などがあり、観光資源にも恵まれている。

丸山市長は、永年酒田市役所にご勤務の後、2015年9月に市長に就任された。「市民のパワーを引きだす一賑わいの創出に向けて人財と風土が支える産業・交流都市」をビジョンとし、まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進しておられる市長に、酒田市ならではの地方創生への取り組みなど、幅広くお話をお伺いした。

市長としてこの1年を振り返って

●町田 市長と最初にお会いしたのは、東北公益文科大学（以下公益大）の理事会だったと記憶しています。市長は、酒田でお生まれになって、山形大学ご卒業後、酒田市役所に入り、副市長まで務められて、昨年、市長に当選されました。一本筋を通して、ふるさとのために尽力されており、敬服している次第です。

●丸山 ありがとうございます。大学を出てからは、ずっと酒田市役所勤めですが、父の仕事の関係で小中高時代は新潟で過ごしました。父が鶴岡、母は酒田出身ですので、庄内、山形に対する思いは強いですが、一方、新潟で暮らしたことの影響も受けていますので、相対化して庄内をみることもできるということで、よかったと思っています。

市長に立候補した際には、酒田を人財と風土が支える産業都市、交流のまちとして育てたいということをお約束としてかけました。この1年を振り返ってみる

と、産業基盤を強化し、交流を呼び起こす仕組みづくりとしての種まきはやったという感があります。その成果はこれからですが、もし、芽が出ずにうまくいかないようであれば、新たな種をまかなくてはなりません。

産業・交流 酒田のまちづくり

●町田 日本全体が少子高齢化の波を受けており、酒田はその一番先の方を行っている訳ですが、地方創生にはどのように取り組んでおられますか。

●丸山 竹下政権時代にもふるさと創生事業があったように、地方創生は以前からいわれてきたことです。今回は、国が交付金を支給し、それを使って自治体が計画を策定のうえ、PDCA的にフォローする仕組みづくりとしたことが新しいわけですが、もとより国に言われたからやるのではなく、自治体が自ら知恵を出し仕組みづくりをしていかなければなりません。

本市では、産業基盤の拡充と人が往来するまちづくりを基本戦略としています。その施策の一つとして日本版CCRC（「生涯活躍のまち構想」）の実現をあげています。地方に住むことの充足感、生きがいといった価値観を首都圏の方々に理解していただき、こちらに来ていただくというPRが必要です。

●町田 首都圏からいきなり移住・定住というのではなく、元駐日米国大使ライシャワー氏の言う「（首都圏にはない）もう一つの日本」をエンジョイしてもらうというのも一方でしょう。例えば、1年の内、数カ月酒田に居住してもらうという首都圏との二重の居住というやり方から入るのも良いのではと思います。

酒田駅周辺開発事業では、居住部分も建設されるのですが、これをCCRCに活用するというのも考えられるのではないのでしょうか。

●丸山 庄内銀行さんには、創生総合戦略策定に際してシンクタンクの役回り、いろいろお手伝いいただきました。また、今般、11月に新設予定の「酒田市役所東京吉祥寺テラス」を庄内銀行吉祥寺支店に併設していただくことになりました。吉祥寺のある武蔵野市は、酒田市の友好都市として親しくさせていただいていますが、そこに酒田の魅力や移住・定住を含めた地域間交流の情報発信拠点を新たに持つことができる意義は大きく、感謝しております。

首都圏から人を呼び込む仕掛けづくりができていますので、これからはさらに地域の知恵を結集し、より魅力あるものに磨き上げていきたいと思っています。この地域の医療環境、東北公益文科大学、これら

を核に首都圏からの人の流れを呼び込みたいと思います。

●町田 地方創生にあたっては、「産官学金」、あるいは労働界、言論界を加え「産官学金労言」ともいわれますが、これらが連携していくことが大切です。国も地方自治体も財政的に厳しい状況ですが、民間には資金が余っています。公共インフラ等の整備、維持にうまくこの資金を還流させていくことを含め、地方創生に向けていろいろと提案し、自ら動くことが今まさに地域の金融機関に求められていると思います。

●丸山 吉祥寺でのわれわれと庄内銀行さんの協働も産官学金連携の一つの例となりますね。

●町田 酒田をはじめ庄内地方は、米どころであるとともに果樹、畜産など米以外でも頑張っています。農業は地方創生においても極めて重要ですが、新しい動きがでてきていますか。

●丸山 農業については、国土保全にこれだけ貢献しているんだ、食糧生産は国の基盤だという意識だけではやっていけない時代となっています。

生き残るためには、いろいろな戦略が必要で、新しいチャレンジが求められています。米だけではなく、収益性の高い、例えば園芸作物等を取り入れた複合的な経営を目指すことが必要です。

昨年「全国ねぎサミット」を開催しましたが、その後、この地域のねぎの作付面積が増加し、ねぎ産地としての基盤ができています。但し、いつまでも同じ作物が勝ち残れるほど甘くはないので、常に新しい着眼点と先を見ることが必要です。



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行、同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、庄内銀行取締役頭取、同行取締役会議長、フィデアホールディングス取締役会議長等を歴任。現在、フィデアホールディングス取締役・指名委員会委員長、北都銀行取締役会長、庄内銀行相談役、フィデア総合研究所取締役理事をそれぞれ務める。また、2012年4月より2年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。

湊町酒田のシンボル 山居倉庫 (写真提供 酒田市役所)



「学」との連携

●町田 酒田の「知」の拠点として公益大の存在は大きいものがあると思います。市長は、創立にあたり大学に出向されご尽力されたと伺っています。私も学長を務めさせていただきましたが、その折りにも庄内の人たちの「地元の大学を創りたい」という強い意志を感じました。

●丸山 一般的に大学というとOBが中心となって大学を支えますが、新設の公益大は当然のことながらOBがいないわけです。そのかわりに、地元の企業、地元の人たちが支えでした。学生の募集では、地域に根ざした公設民営で、住民が支える大学として、酒田のまちづくりには欠かせないと思います。大学がまちづくりに貢献する、まちが大学の発展をサポートするという双方の関係が大切だと考えています。

●町田 副市長に、公益大の矢口元教授を起用されましたね。

●丸山 副市長という市、県、あるいは国の公務員OBからの登用ということが多いと思います。しかし、私も公務員生活が長いわけですが、これからは今までの公務員的な考え方だけではいけないのではないかと考えています。市民の皆さんも同じように感じておられるのではないのでしょうか。ただし、副市長としては行政のことも分かっていないといけないということもあります。

こうした事情から、行政の研究を専門領域の一つとする公益大の先生が良いのではないかと考え、また、女性を是非登用したいと思っておりましたので、矢口さんというまさに、適任の方がいらしたということです。

矢口さんは、ニュージーランドの行政に詳しいので、市民が積極的に行政に参画するという風土形成のための仕掛けづくりをしてもらっています。また、酒田市は、2020年東京オリンピック、パラリンピックに際してのニュージーランド選手団のホストタウンとなるべく準備中です。これにも公益大のニュージーランド研究所長でもあった矢口さんが尽力しています。

●町田 ニュージーランドは、日本と同じく島国で、面積は日本の3/4、人口は1/40以下ですが、国民として自立性が高く、小さな政府でありながら産業政策を含めて成果をあげていると聞いています。ニュージーランドに着目された市長の発想は素晴らしいと思います。

山形と日本海を軸とした広域連携

●町田 観光をはじめとして地方創生には広域的な連携も必要とされています。庄内では「交易、公益の酒田」と「城下町、文化の鶴岡」が中心となって、それぞれの良さを生かしながら全体の魅力を高める必要があります。

●丸山 酒田と鶴岡は、ライバルという面もありますが、基本的には一緒に手を取りあうパートナーです。そうでなければ、庄内は置いてきぼりになってしまいます。

酒田は、古くからの港町、また、交通の要衝として発展しました。港があることが酒田の財産であり、その存在が庄内に寄与できると思います。来年の夏、いよいよ外国のクルーズ船が酒田に寄港することになりました。乗客が鶴岡のもつさまざまな魅力を楽しんでもらうことなど協働していきたいと考えています。

●町田 外国からのクルーズ船が寄港することは喜ばしいことです。庄内だけにとどまらず東北全体を視野に入れた観光というのがますます必要ではないかと思っています。観光の経済波及効果は大きいものがあります。

●丸山 来年寄港するクルーズ船の乗客は1,800名で経済効果は数億円になります。これが、3,000~4,000名規模の大型船の寄港となるとインパクトは極めて大きなものとなります。寄港地としての魅力を高めるため、受け入れ体制の整備など地域の方々と協働していきたいと考えています。

また、日本海を軸とした広域連携も進めています。山形県の遊佐町、本市、秋田県のかほ市、由利本荘市の3市1町の協働で、鳥海山・飛鳥ジオパークの認定を日本ジオパーク委員会に申請しています(注:9月9日に認定が発表された)。

自治体の枠を越えて、周遊観光のモデルケースづくりやジオガイド養成、地域間交流などの面で地域主体、住民主体の新しい活力が生まれることが期待できます。さらに、本市、秋田市、新潟市などの北前船寄港地の



コンテナ貨物取扱量が着実に増加している酒田港 (写真提供 酒田市役所)

市町が「北前船寄港地」を日本遺産に登録すべく連携しています。地域それぞれが連携しつつ、お互いを発展させていこう、もう一度日本海側の港のある町が日本の発展を支える時代にしていこう、という思いをこめてこの日本遺産登録を進めていきたいと考えています。

●町田 北前船は関西までの広がり、江戸時代の交易、物流は日本海側が中心でした。これからはアジアの時代といわれていて、本来は日本海側が中心となるべきですが、依然として太平洋側が中心です。北前船寄港地の日本遺産登録を契機に、思いきって変えていただければと思います。

交通網の整備が課題

●丸山 人の流れ、物流において重要なのは、やはり交通網だと思います。庄内には空港があって、羽田から実際飛んでいる時間は50分程度ですので、首都圏内での移動時間と遜色ありません。しかしながら航空運賃は高価です。一方で、航空機以外の交通手段では時間がかかります。

往来しやすく、安く、早く行き来ができるということも観光資源のひとつです。そういう環境を整えれば、

庄内は観光の面でも、食料供給基地としても本当に素晴らしい地域として発展できる可能性があると思います。

私どもとしては、まずは交通網の整備が観光振興、人材の呼び戻しをはじめ、地方創生という意味で大切な仕掛けと考えており、鶴岡市とも手を携えてその実現に向けて全力投球したいと考えています。

●町田 全くそのとおりですね。地方の空港にもLCC(ローコストキャリアー格安航空会社)が入ってきつつあります。今後、地方路線の航空運賃も低下していくのではないのでしょうか。

新幹線網の整備も重要だといえます。山形新幹線の延伸もありますし、また、新潟から鶴岡、酒田を経由して秋田、北海道に至る日本海に沿った新幹線ルートも是非必要といえます。

●丸山 道路、鉄道、航空、海運など、人、モノが行き来する往来の手段はいくつあってもいいわけです。あれもこれも欲しいということはいかなるものかという意見もありますが、庄内地方は交通ネットワークという点では置いていかれている地域だと思っております。交通網整備には貪欲に声を出して行動していきたいと考えております。

●町田 地方創生戦略で人口減少のスピードをいかに緩めるかということではありますが、社会インフラの維持の点から、酒田、鶴岡の2つを中心にコンパクトシティ化を考えざるをえないのではないのでしょうか。そうしますと、これをつなぐ交通ネットワークをどうするかということもあります。

●丸山 庄内というエリアで考えれば、地域間の往来の足をもっと整備する必要があります。具体的には、国道7号線を鶴岡まで全部4車線化すれば、より酒田と鶴岡が密接につながるようになり、両市が機能分担していくうえで極めて有用です。高速道路ではつながっていますが、国道の通行は無料ですから、人、モノの往来に効果が大きいと思います。

酒田は、陸・海・空と三つの玄関口をもつ都市ですが、この特性をもっと生かすためにも交通ネットワークの整備が重要です。

●町田 まだまだ、話題はつきませんが、天皇皇后両陛下がご臨席される「全国豊かな海づくり大会~やまがた~」の開催を控え、大変お忙しいなか、酒田にとどまらず広い視野を持って市政に取り組みされている市長のお話を伺うことができ、大変ありがとうございました。(注:対談は、9月10、11日に開催された「全国豊かな海づくり大会~やまがた~」に先立つ9月6日に行われました)